

一里塚（一对二基）



指定区分	県指定文化財
種別	県史跡
名称	一里塚（一对二基）
所在地	十和田市大字大沢田字池ノ平
所有者	個人
指定年月日	昭和 36 年 10 月 6 日
概要	<p>一里塚とは江戸時代、全国の主要街道沿いの一里（約四km）ごとに築かれた塚である。道をはさんで2基の塚が築かれていることが一般的で、距離の表示や各種駄賃（運賃や報酬）の目安の役割を果たしたほか、旅人達の休息の場ともなっているとされている。</p> <p>池ノ平の一里塚は、東側の塚が直径 11.5m、高さ 3.6m、西側の塚が直径 13.2m、高さ 3.4mあり、一部が破壊をうけているものの、一里塚本来の姿が良く保存されていることから、1961（昭和 36）年に県の史跡に指定された。</p> <p>築造年代については諸説あるが、工藤正六家文書に「承応元年 7 月 26 日より 8 月 10 日、七戸川去・豊間内間一里塚築造、奉行工藤重助祐道」（七戸町史 2 所収）とあり、1652（承応元）年とする考え方が示されている。</p> <p>十和田市内の旧奥州街道沿いには、当一里塚のほかに真登地、一本木（相坂）、伝法寺にも一里塚が現存しており、往時の奥州街道の様子を偲ぶことができる。</p>